

恵 山

○ 火山活動評価：静穏な状況

火山活動は静穏に経過しました。

平成 18 年は火山情報の発表はありませんでした。

○ 概況

・火口や噴気の状況（図 1～4）

11 月 8～10 日に調査観測を実施しました。X 火口・Y 火口および周辺の地熱地帯の状況に変化はありませんでした。

また 6 月 30 日および 10 月 30 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、噴気の状況や火口の状況に変化はありませんでした。

・地震活動（表 1、図 5）

火山性地震は 1 日あたりおおむね 5 回以下と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

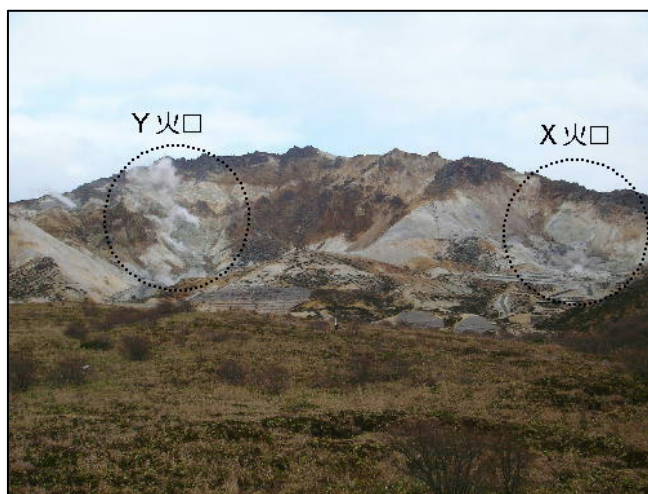


図 1 恵山 山頂ドームの状況
(11 月 8 日 西側展望台から撮影)

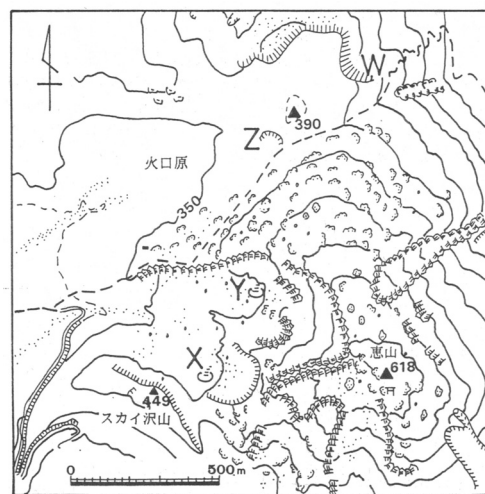


図 2 恵山 山頂周辺図

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 17 総複、第 650 号）。

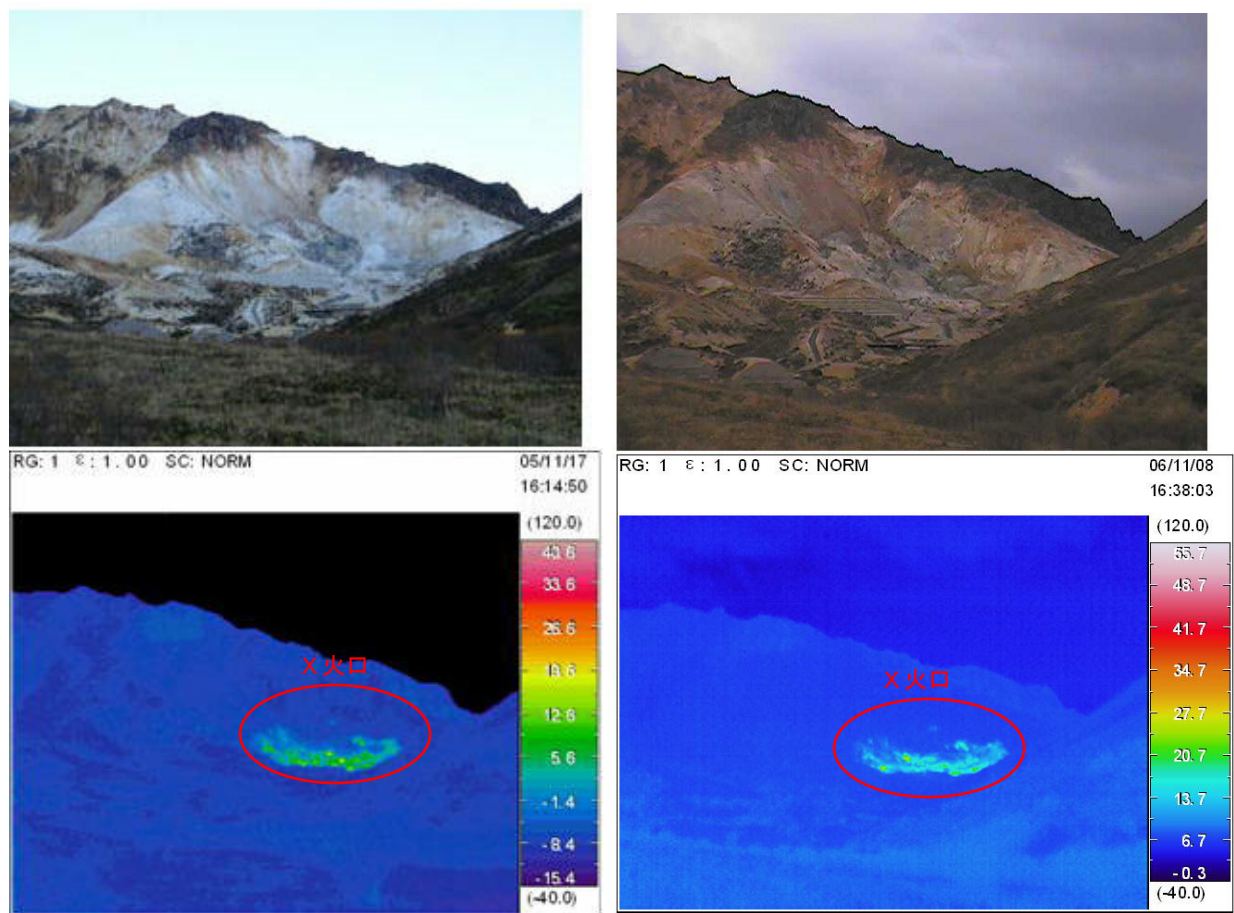


図3 恵山 赤外熱映像装置*によるX火口の表面温度分布
（左：2005年11月17日 右：2006年11月8日 いずれも西側約600mから撮影）

【X火口】

- ・ 火口底の複数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出していました。
- ・ 噴気温度は 100～150℃前後（サーミスタ温度計*）で、前回（2005 年 11 月）と比べ変化はありませんでした。
- ・ 赤外熱映像装置による観測では、火口底の活発な各噴気孔に対応した高温域が認められましたが、高温域の拡大や新たな地熱域などは見られず、大きな変化はありませんでした。

*サーミスタ温度計はセンサーを直接熱源に当てて温度を測定する測器です。一方、赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

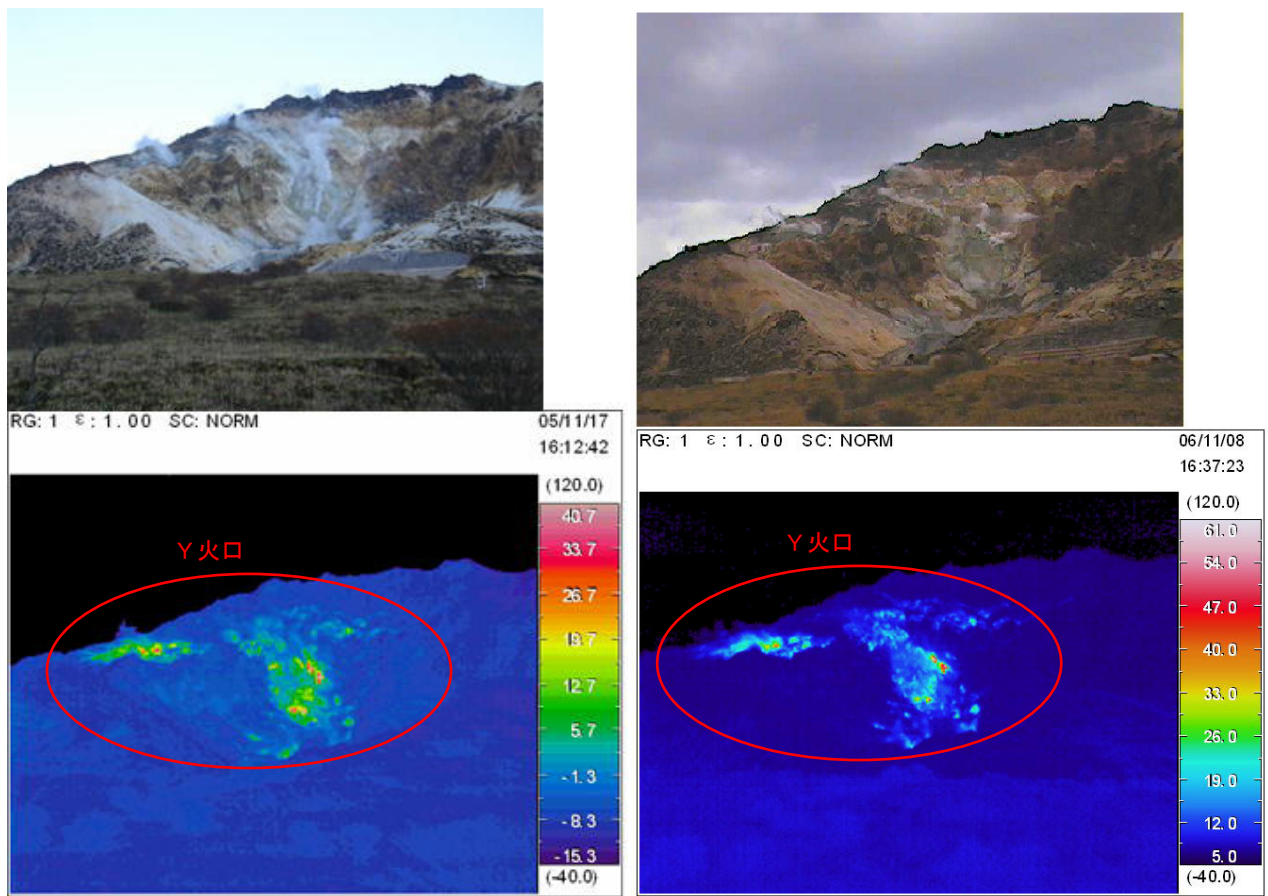


図4 恵山 赤外熱映像装置によるY火口の表面温度分布
（左：2005年11月17日 右：2006年11月8日 いずれも西側約770mから撮影）

【Y火口】

- ・ 火口底および東側火口壁の複数の噴気孔から、やや強い二酸化硫黄（ SO_2 ）臭を伴う白色の噴気を勢いよく噴出していました。
- ・ 火口底の噴気温度は 130°C 前後、東側火口壁は約 200°C （サーミスタ温度計）で前回（2005 年 11 月）と比べ変化はありませんでした。
- ・ 赤外熱映像装置による観測では、東側火口壁中段および上段の活発な噴気孔に対応した高温域が認められましたが、高温域の拡大や新たな地熱域などは認められませんでした。

表 1 ** 恵山 地震・微動の月回数（ドーム北）

2006 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	16	21	20	13	17	7	11	19	47	16	16	12
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

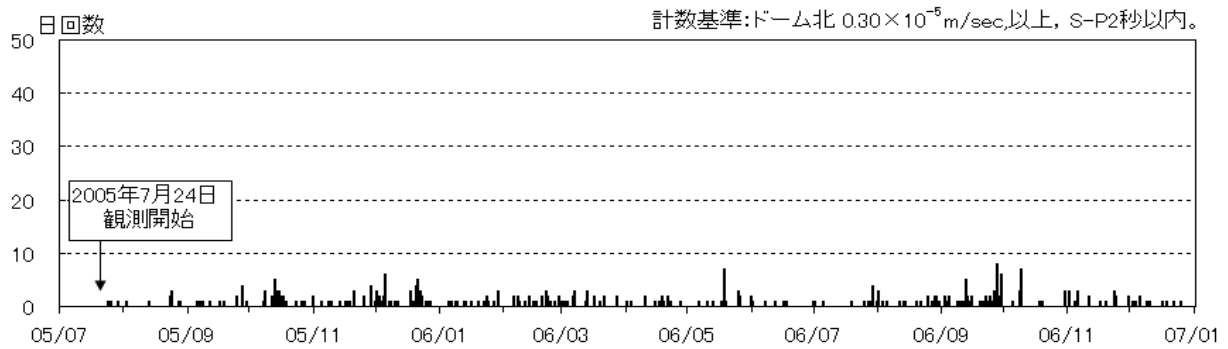


図 5 ** 恵山 日別地震回数（2005 年 7 月 24 日～2006 年 12 月 31 日）

**2006 年 8 月に地震回数の計数基準を変更しました。表 1 および図 5 には、観測を開始した 2005 年 7 月 24 日に遡って見直しを行った回数を掲載しています。

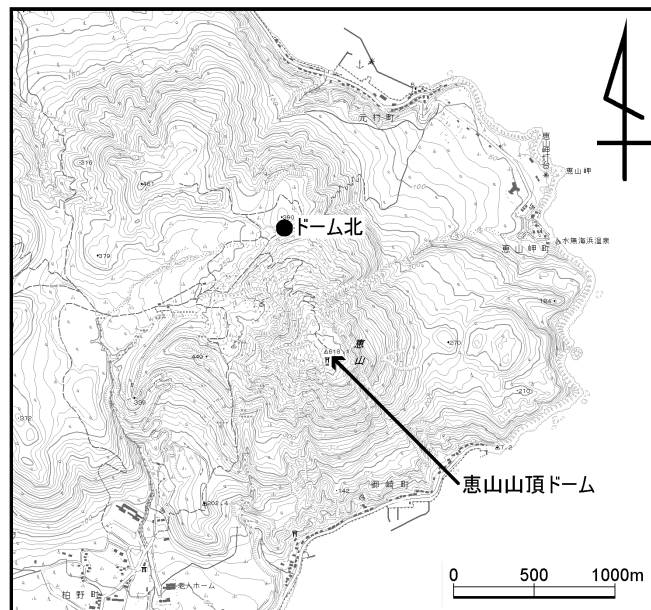


図 6 恵山 地震計配置図（図中●）